

## 新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	脳血管障害に対するコンピューターシミュレーションを用いた血流解析
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
<p>脳動脈瘤、頭蓋内・外血管病変、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、もやもや病、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血などに関わる脳血管の病気を持っていて、画像(CT, MRI, 脳血管撮影など)による病変の評価が可能な患者さんを対象としています。対象となるのは 1990 年 1 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日の間に新潟大学医歯学総合病院で脳卒中のために外来通院または入院されました患者さんです。</p> <p>過去の研究課題名：なし</p> <p>研究責任者：新潟大学脳研究所脳神経外科 助教 鈴木倫明</p>	
③概要	
<p>脳卒中は日本の死因の第4位で寝た切りになる病気の第2位でもありまして予防と治療がとても重要です。脳卒中には脳出血や脳梗塞、クモ膜下出血などがありますが、それらは正常な血液の流れが上手くいかなくなって引き起こされるものと考えられています。脳動脈瘤や動脈硬化などによる血管の狭窄・閉塞、脳動静脈奇形や硬膜動静脈瘻などの血管奇形、もやもや病などの脳血管障害はそれら血流の異常が病気の発症や進行に強く関わっています。今までコンピューターを用いた血流のシミュレーション(computational fluid dynamics; CFD)によって数多くの研究が行なわれてきていますが十分ではありません。それら脳卒中に対して血流のコンピューターシミュレーションを行なうことで病気の発症や進行、治療後の再発などの原因となる血行力学的因子が解明されて患者さんの予後の改善につながることを期待されます。</p>	
④申請番号	2020-0027
⑤研究の目的・意義	本研究の目的は、脳卒中において血流のコンピューターシミュレーションを行なうことでその病気の解明や治療に関わる重要な血流の働きを明らかにすることです。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2029 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	この研究を行う際は、患者さんの通常診療で検査されました画像データ(CT, MRI, 脳血管撮影など)を用いまして、専用のソフトウェアによる血流のコンピューターシミュレーションを行ないます。得られたデータは他の機関へ提供されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	患者さんの疾患名、病歴や既往歴、採血や画像データ、治療内容、治療成績や予後などについての情報を得ます。そしてそれらの情報と血流解析の結果との関連性を調べます。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行います。研究

	<p>の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。</p>
<p>⑨利用する者の範囲</p>	<p>新潟大学脳研究所脳神経外科</p>
<p>⑩試料・情報の管理について 責任を有する者</p>	<p>本学：新潟大学脳研究所脳神経外科 助教 鈴木倫明</p>
<p>⑪お問い合わせ先</p>	<p>新潟大学脳研究所脳神経外科医局 助教 鈴木倫明 Tel：025-223-6161 Email：shindainougeka@bri.niigata-u.ac.jp</p>